

★（G P）「アジア交流広域都市圏」としての情報の集約と共同発信

意義と目的	<p>福岡県、福岡市、北九州市をはじめとする自治体や諸団体・機関では、アジア地域との様々な分野の交流事業がそれぞれ行われているが、相互の情報交流がない。</p> <p>これを一元的に集約し、共同で発信することで、対外的な知名度アップ、交流事業の共同化につなげる。</p>
事業内容	<p>各自治体、団体、機関におけるアジア交流事業の紹介、都市圏全体のPRを行うポータルサイトを設置する。掲載する情報は、九州北部地域の幅広い情報とする。</p> <p>また、横断的な連絡組織を設置し、情報交換、共同事業の検討に活かす。</p>

★（G P）高齢者能力の活用による社会貢献活動の推進

意義と目的	<p>一線をリタイアした福岡在住の高齢者の社会貢献活動を促進し、能力の活用を図ることにより、生き生きとしたセカンドライフに寄与する。</p>
事業内容	<p>自らの経験・能力を活かし社会貢献活動を希望する高齢者について、分野別人材リストを作成し、学校教育や社会教育を実施する自治体、NPOなどの事業に活用する。</p>

★（G P）訪日外国人及び短期滞在外国人向け観光情報の提供

意義と目的	<p>福岡を訪れる外国人のうち半数以上を占める中国人、韓国人が気軽に街中の散策やショッピングを楽しめるようにするため、中国語・韓国語による観光案内を充実させる。</p> <p>また、当地域のコンパクトさ、交通インフラを活かし、短期滞在型の観光、イベント・コンベンション等で来福した外国人が楽しめる材料を提供する。</p>
事業内容	<p>中国人、韓国人が気軽に福岡を訪れたくなる案内の充実を図るため、福岡に在住する中国人・韓国人留学生を活用し、街中にスポット的な案内所を配置する。</p> <p>祭り、イベント、劇場、美術館等の文化施設、ショッピング、温泉、マッサージなどを半日あるいは1日中まるごと楽しめるエンジョイマップを作成する。</p>

拠点化に向けた課題

■多岐にわたる分野での交流の促進

ショッピング、食、住等のライフスタイルのみならず、環境問題、芸術・文化、知的生産等様々な分野での交流を促すための仕組みを構築する必要がある。

■情報発信の強化

一度福岡を訪れた外国人の評価は高いものの、アジアでの福岡の認知度は高くない。当地域内の各自治体・団体がそれぞれ個別に実施している情報発信を一元化し、情報の質と量の拡大が必要である。

■福岡の良さをトータルでPRする

賑わいと自然のバランスのよさ、食や温泉などのヒーリング、アジアからのアクセスの良さなど、「ゆとりある都市生活のモデル」としての都市圏の魅力をトータルとしてPRしていくことが必要である。

拠点像2 環境先進

概要

アジアにおいては、急速な経済発展の一方、大気・水質汚染、ごみ問題などの環境問題が深刻化しており、持続的な発展のためには、国境を越えた環境への取り組みが必要となっている。当地域は、深刻な産業公害を克服した都市圏の経験と、それによって培われた環境・リサイクルの技術、ごみ処理技術などの先進的技術を有しており、環境負荷を大幅に低減する資源循環型の新しい環境モデルを構築し、アジアにおける環境問題の解決に貢献する先進拠点となる都市圏像を描く。

(拠点像を支える要素)

蓄積された環境技術、環境意識の高まり

施策の方向

○公害克服の経験により培われた技術・ノウハウの活用

アジア諸国は、急速な経済成長の一方、大気・水質等の汚染、ごみ問題などを抱えている。公害の克服による環境・リサイクル技術、水不足の経験による節水技術、ごみ処理技術など、当地域の過去の経験や実績により蓄積された先進的技術は産業として有望な分野である。

○資源循環型の新しい環境モデルの構築

「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにすること（ゼロ・エミッション）を目指し、資源循環型社会の構築を図っている北九州エコタウンの環境・リサイクル関係の企業集積などを活用し、新しい環境モデルを構築するとともに、ビジネスの拡大へとつなげていく。

拠点像の実現に向けた取組例

(●印はすでに実施済みのもの。★印は、これから実施するもの。)

●「水素タウン」、「水素ハイウェイ」(水素エネルギーによる低炭素社会の構築)

水素製造、輸送・貯蔵から利用に至る広範囲な研究開発プロジェクトの推進、世界的研